

## 地域に寄り添う心を 藤田 郁子さん



「お花が大好き」とおっしゃる藤田さんのお庭にコスモスが咲いていた。

「美しさだけを求めるんじゃなく、倒れても倒れたままで、懸命に咲いているコスモスに惹かれるのです。力強く美しく可憐な花だけど、コスモス=宇宙と言う大きな名前を持った花で気持ちを広げてくれる花なのです。」

父を戦争で亡くし、小学生の頃から母を手伝って田植えもしながら、教職の道に進まれた。高校教諭、管理職を経て現在は、三重県人権教育研究協議会の会長を務められている。

「私がリーダーというより、周りの人に支えられ、すごく力をもらっています。何事も前向きにとらえ、取り組んできました。」と話す藤田さん。

また、地域の「月見会サークル」の活動では、みんなで協力して、今年はジオラマ「西之澤の四季」を作成し、交流の輪を広げておられます。

『よく見れば 薺(なずな)花咲く 垣根かな』

「なずなとは小さなペンペン草の事です。自分ももちろん他人も、男女も、大人も子どもも、外国人も同じ大切な命。相手の見えないところをよく見て、その人を認める人間でいたい。芭蕉さんが詠んだこの句に教えられます。」と藤田さんは、私たち編集員にも寄り添う心でお話しをして下さいました。

よく見れば薺(なずな)花咲く垣根かな

芭蕉



夏



秋



冬



春

月見会サークルの作品「西之澤の四季」